

岡山南遺跡 (H27 年度) 地元説明会資料

現在までの調査概要

岡山南遺跡は西尾市吉良町木田に所在します。地形的には矢作（古）川の下流の微高地上に該当し、調査区地表面の標高は3mです。遺跡の北側には三河山地から続く丘陵が伸びます。通称「岡山」と呼ばれ、この丘陵上に中根山遺跡・吉良八幡山古墳・若宮第1号墳などが所在しています。古くから人々が暮らしていた場所であった様です。

岡山南遺跡の発掘調査は県道西尾幡線建設に先立つもので、平成23年、24年に続く3回目となります。過去の調査では古墳時代前期の竪穴建物・溝、奈良・平安時代の井戸・土坑・溝、中世の土坑・溝・水田などが確認されており、この資料にも遺構図を掲載しました。

本年度調査の成果

本年度の調査は、5月から遺跡西側の試掘調査を実施し、6月には本調査を開始しました。本調査は面積850㎡で、奈良・平安時代の竪穴建物・井戸・土坑・溝、中世以降の水田を確認しています。



水田の検出 残された水田の上面を検出した状態



水田の完掘 水田のなかを完全に掘り下げた状態 (中央の灰色部分は現代の水道管を埋めた所)



奈良・平安時代の竪穴建物・井戸・土坑・溝

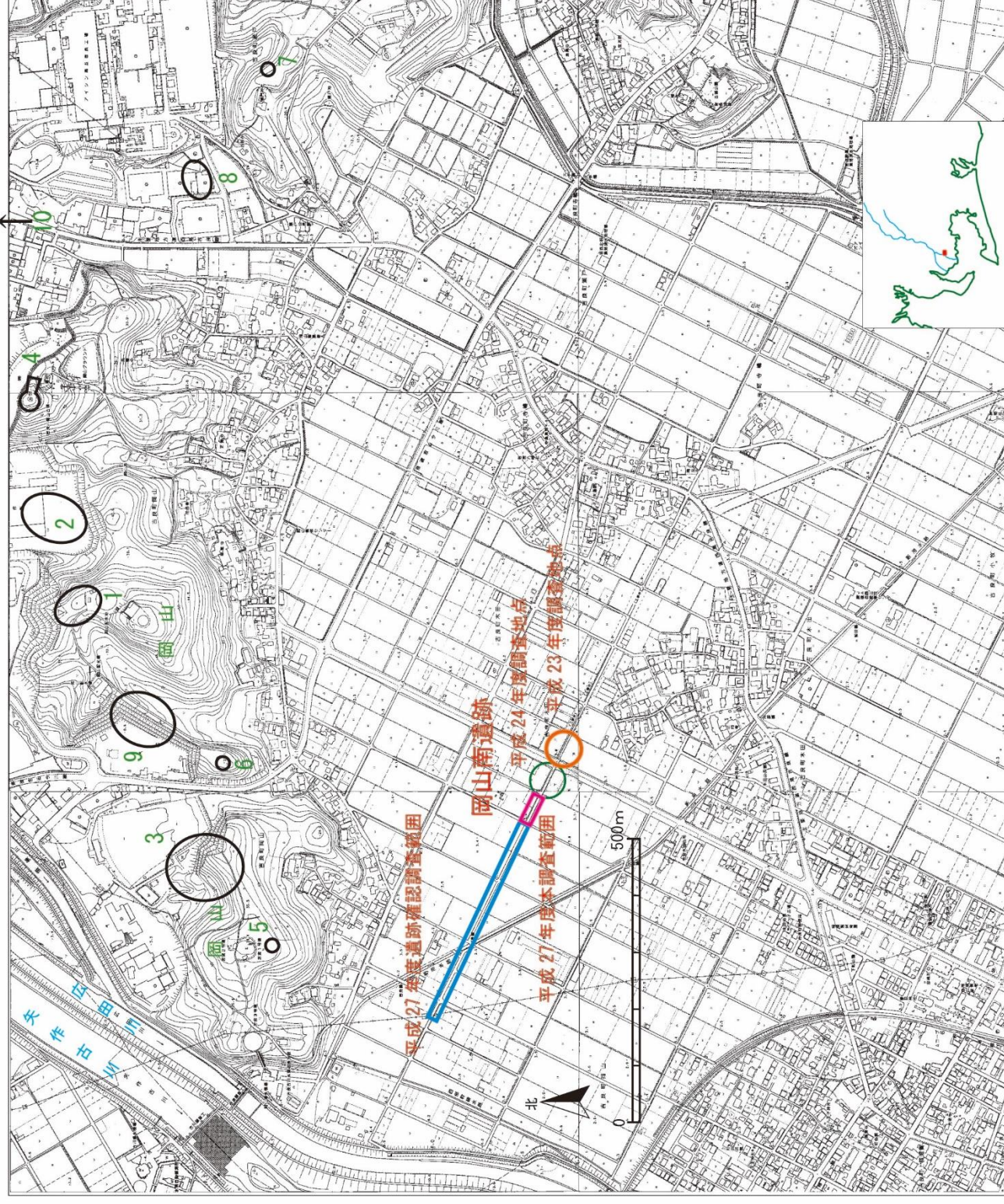
※輪郭を検出したところ、つぎに内部を掘り下げて埋まる前の状態を明らかにします。

調査主体：公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター



調査支援：株式会社 波多野組



日本史の流れと岡山南遺跡周辺の主な遺跡 ※番号は遺跡位置

18世紀	近世	江戸時代	17世紀	治水干拓・勤勉・養民肥料で田畑生産向上 鉄砲より刀・文化・学問を尊ぶ平和な時代 領国で金銀銅流出防止、陶器など国内生産充実
17世紀	中世	室町時代	16世紀	戦国時代 各地の大名が群雄割拠
16世紀	中世	鎌倉時代	15世紀	農村の発達 田畑の生産力向上
15世紀	中世	平安時代	14世紀	日本の金銀銅・硫黄の輸出と中国産陶磁器の輸入 九州に比べ東海では陶器の国内生産が活発 武家勢力の台頭 天皇に仕える公家勢力との葛藤
14世紀	中世	奈良時代	13世紀	天皇を中心とし畿内に都を置いて律令（法）によって 日本全体を統治する中央集権的な国家の運営
12世紀	古代	飛鳥時代	8世紀	各地方で首長・豪族による政権が形成され、 畿内を中心に連合的な国家運営（古墳は首長のシンボル） 在来土師器と韓半島から導入した須恵器の生産
8世紀	弥生時代	紀元前3世紀	7世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
7世紀	弥生時代	紀元前3世紀	6世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
3世紀	弥生時代	紀元前3世紀	5世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
紀元前3世紀	弥生時代	紀元前3世紀	4世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
	弥生時代	紀元前3世紀	3世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
	弥生時代	紀元前3世紀	2世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
	弥生時代	紀元前3世紀	1世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成
	弥生時代	紀元前3世紀	0世紀	水田稲作を生産基盤として国々の形成



※新旧二軒の竪穴建物が重なっている。

竪穴建物



台付長頸瓶 (だいつけいけいへい)

井戸



井戸



溝

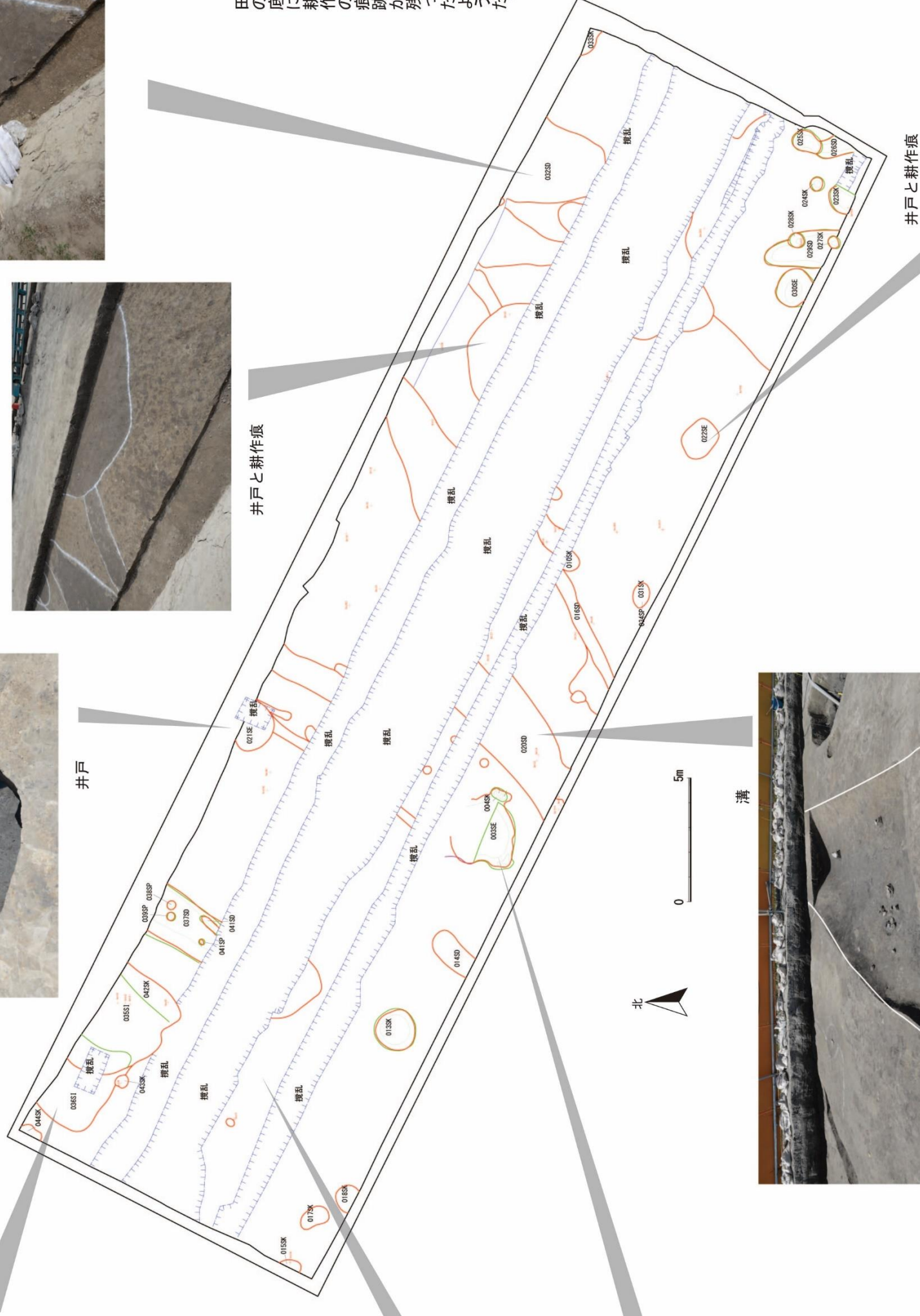


井戸と耕作痕



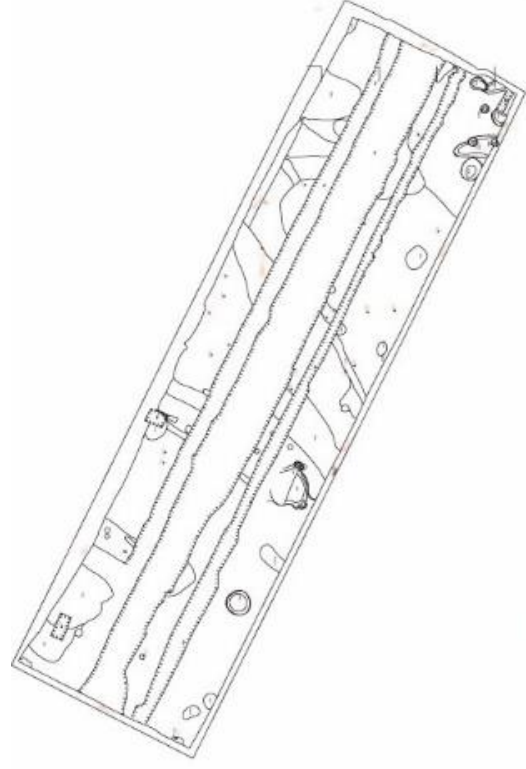
溝と耕作痕

※明るい色の固く締まった粘土層があり、斑点状に腐植土が入り込む。
田の底に耕作の痕跡が残ったようだ。

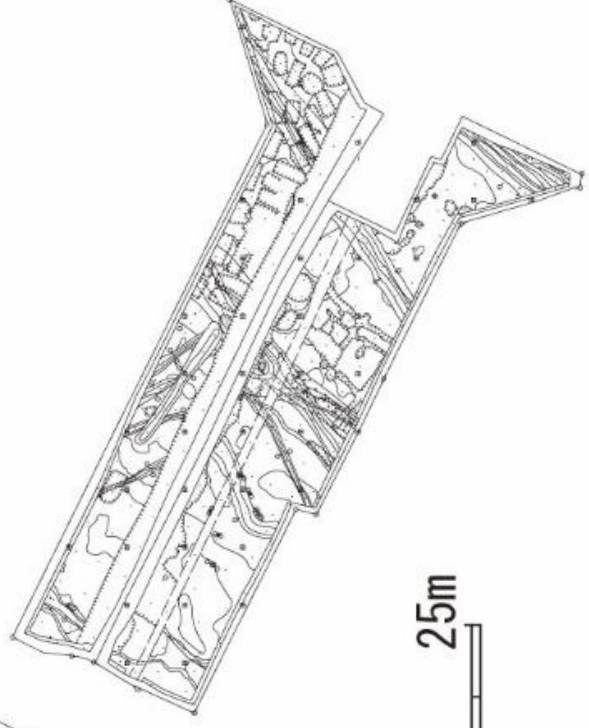


井戸と耕作痕

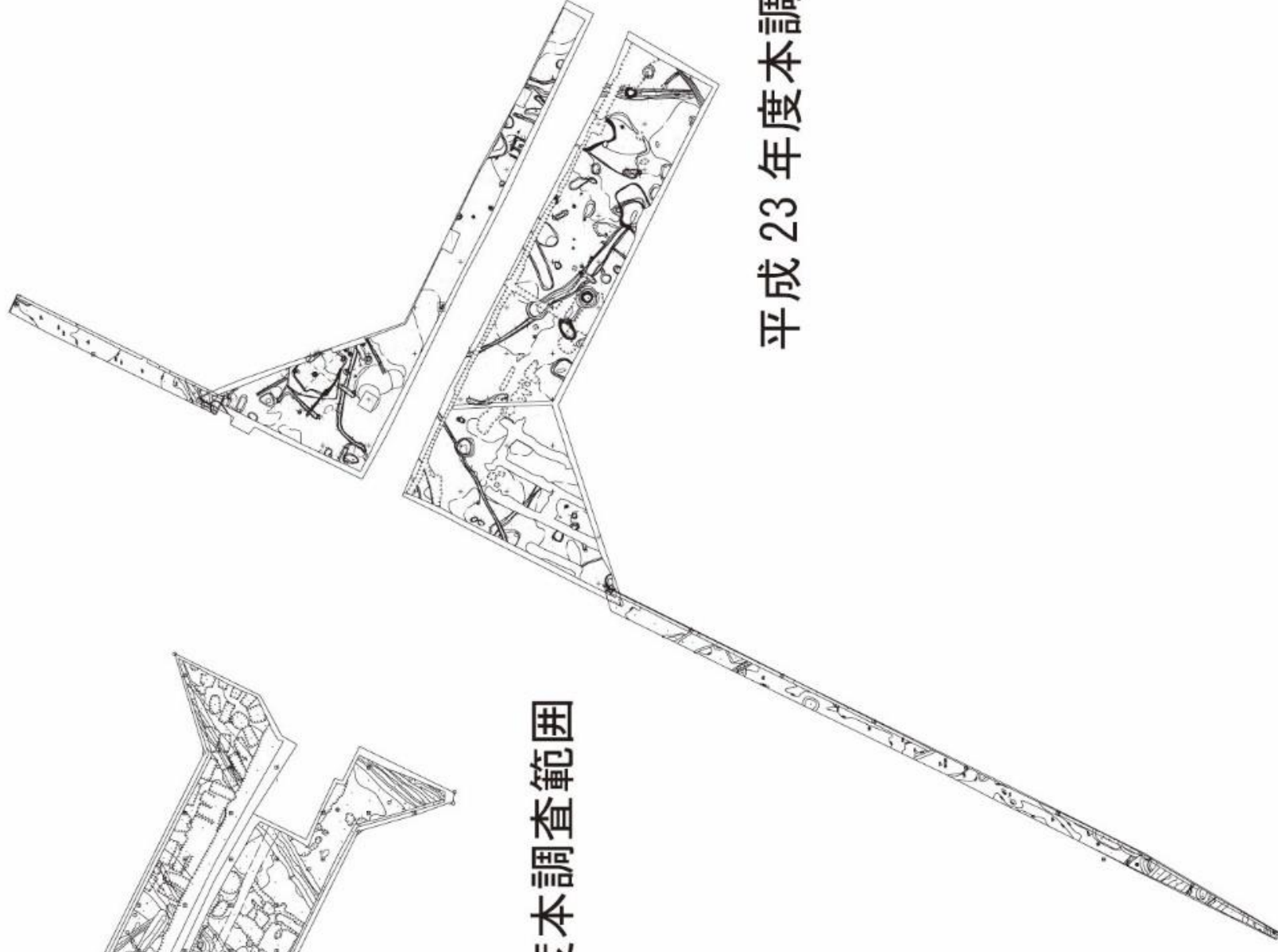




平成 27 年度本調査範囲



平成 24 年度本調査範囲



平成 23 年度本調査範囲



調査スナップ写真

